



第135号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052)411-5301

FAX (052)411-5341

携帯 090-1568-4623

(E-mail)

matsuoka@kosanji.or.jp

精一杯生きる

あとあと後悔しないように毎日を充実させる。

自分の人生を充実させるために精一杯生きる。

一見このような考え方、生き方は良さそうにみえるがそれほどでもないようだ。

いつか本当のつきあたりが来たら、精一杯生きていたという思いも自己満足だったんだと気づくし、日々充実していたと思っていた生活もなんの役にも立たなかったと思うだろう。毎日が充実しているんだと自分を安心させたかっただけとも思える。

逆に、毎日が充実していない、精一杯生きることができていないと思う人はダメかといえばそうではない

のだ。

我々はいかに自分の人生を良くするかを考えていると計画を立てたりするが、病を前にその計画は思い通りにいかなくなるし、死を目の前にしたらすべては破綻したかのように思うだろう。

親鸞の書物には「誠実に生きれば幸せになれる」なんていうことは一切書かれていない。一生懸命生きれば幸せになれるというのもこれは我々が抱く幻想である。

本当のつきあたりが来たときに響くのが親鸞の教えである。つきあたりが来てからの生き方こそが問われていくのである。つきあたりとはもはや自分の計画が立たなくなっただけである。自分で自分の計画が立てられなくなったらそれこそ仏にまかせるしかなくなる。

つきあたりまでが精一杯ではなく、生まれてから死ぬまで充実していかなくとも思い通りにいかななくとも精一杯に生きていけるのが仏教なのである。

新元号令和に思う

釋 綽智

今朝は雲一つない五月晴れ、しかも経験したことのない十連休の初日です。新緑の庭木もまばゆいくらいすがすがしい。この連休中の四月三十日が平成最後の日となり皇居で天皇の退位式、そして五月一日に新天皇の即位式が営まれる。元号も平成から令和となる。私は昭和から平成、そして令和と三代にわたって生活ができるのは幸運である。

新しい令和時代が長く平和で続いてほしい。科学の発展はめざましく、人の住めない宇宙の星まで行って石を取ってくるまでになった。空飛ぶ自動車までできそうだ。より



速く効率よく目的達成への努力、競争、研究はめざましく人目をひくが人間にとって幸せなのでしょうか。喜んでばかりはいられない。

老・病・死は避けられないが親が子供を虐待するユースが多くなった昨今を考えると悲しい。親として大人としての生き方に方向性を見失っているのではと思ってしまう。平成の年間を通して私たちは何を残したのでしょうか。井の中の蛙と日本人が今や世界各地で活躍している情報があふれるばかりで誠にたのもしいかぎりである。

日本も他国への献身的に生活向上に向けての支援までは良いが、彼らの生活や信仰への介入まで良くない。日本の物差し(価値観)で他国の文化や宗教や政治を計ってはならない。

共存共栄の考えを、バラバラでいっしょにという考えを大切に持続できる令和になることを望みます。

廣讚寺報恩講 御伝鈔について

伊藤和美

廣讚寺で毎年厳修される報恩講では御伝鈔が拝読される。御伝鈔の拝読は別院の職員二人にお願いしている。廣讚寺報恩講は三昼夜勤められ、二日目の午後には御伝鈔が拝読される。

御伝鈔の拝読は外陣に大きなろうそくを灯した燭台を置き、そのろうそくの明かりで上巻下巻の巻物を一人ずつ交代で拝読する。

御伝鈔の内容は親鸞聖人の一代記である。

親鸞聖人は京都で亡くなり墓が作られた。それを守り親鸞聖人の教えを伝えようとしたのが聖人の末娘の子である覚如上人である。その覚如上人が御伝鈔を作られた。親鸞聖人のエピソードを二十場面の絵にして表した。絵は浄賀法眼が描いた。これを四幅の掛け軸

にした。

本山はもちろん、真宗寺院ではこの軸を報恩講になるとかけて勤める。

御伝鈔の始めは親鸞聖人の得度式の場面で一番最後は親鸞聖人のお墓の絵である。

御伝鈔を通じて親鸞聖人の恩徳に改めて報謝の思いをよせていきたいものである。ぜひ皆さんも廣讚寺で拝読される御伝鈔を拝聴いたしましょう。



廣讚寺報恩講御伝鈔拝読

行事予定

六月八日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(水) 二時 学習会

二十八日(金) 十時 二十八日講・女人講

七月十三日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(金) 一時半 学習会(東光寺にて)

(ご命日の集いに出席)

納涼大会

二十一日(日) 夕方から納涼大会

(雨天決行)

ボールすくい・輪なげ・

ビンゴ大会など…

楽しい催しものがいっぱい。

どなたでもご参加ください。

二十二日(月) 九時 後片付け

二十八日(日) 十時 二十八日講・女人講

20組 行事予定

六月二十日(水) 暁天講座：午前六時五十分～八時

「現代と仏教」講師 古田和弘氏

場所 慈法寺

七月十二日(金) ご命日の集い(団参)

三河地方・浄照寺

参加費 八〇〇〇円

七月十九日(金) ご命日の集い：一時半

「真宗門徒として生きる」講師 田中謙次氏

場所 東光寺

